



# ぶどうのささやき

20号

2015年  
7月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## 日本の近代化と横須賀

日本が近代国家となっていく過程で横須賀の果たした役割は大変に大きい。

近代への第一歩を印したのは、1853年7月に浦賀沖へ来航したアメリカ東インド艦隊の司令官ペリーが率いる4隻の軍艦（そのうちの2隻が蒸気船）であった。ペリー以前に来航した異国船の友好的な態度を少しも見せないペリーの戦略に負けて、久里浜の地で国書を受領した。

これが近代への幕開けであった。しかし、実際には国書にとにかく言うよりも、久里浜の海岸に上陸した海兵隊がマーチングバンドに合わせて行進するさまを見た浦賀奉行所の役人も警備についていた各藩の武士たちもその一糸乱れぬ行進に感動し、近代軍隊の本当の姿を感じとった。これが現代の私たちの歩き方（右足がでると左手・左足がでると右手がでる）の元となった。

幕府は砲台だけの警備に限界を感じ、軍艦造りを許可した。この背景には国を守るという日本民族の意識が大きく芽生え、国防を強く意識した瞬間でもあった。

日本で最初の洋式軍艦は浦賀奉行所の役人の手で完成した「鳳凰丸」であった。しかし、欧米諸国が蒸気軍艦の時代に入ってきた時代、帆船鳳凰丸では対抗できないことも明らかであった。

こうした時代に、近代的な造船所計画を立てたのは、幕府の外国奉行や勘定奉行・軍艦奉行などを歴任した小栗上野介忠順であった。日米修好通商条約の批准交換で訪れたアメリカのワシントン海軍造船所を見学した小栗は、造船所では軍艦だけを造るのではなく、エンジンも大砲さえも造っており、その原動力がすべて蒸気機関であることに驚きを隠せなかった。

この驚きから日本でも同じものを造ろうと計画した。しかし、当時の幕府役人にはなかなか賛同が得られなかった。こうした状況を変えたのは、フランス公使ロッシュに会ってからであった。ロッシュはフランスの「カイコ」が伝染病で絶滅の危機にあるとき、東洋の「カイコ」を、さらに

### 横須賀開国史研究会 会長 山本 詔一



は生糸をも輸入できる先として、日本へ来た。ロッシュにとっても小栗の発案の造船所計画に加担することで、生糸やカイコに結びつく大きな足掛かりであった。

フランスの全面的協力を得て、横須賀造船所計画はスタートした。その指導者はフランス人技師ヴェルニーであった。この造船所はフランス語で海軍工廠を意味する「アルスナル」を訳したので、横須賀製鉄所という名称でスタートした。

ヴェルニーはすべてフランス式で行う方針であったから、当時の日本にはない日曜日を休日とすること。労働時間は西洋時計の午前6時30分に始業し、午後5時に終業すること。賃金は月給制として、毎月支払うこと。その帳簿はフランス式の簿記会計で記入すること。造船所内の建物はすべて「レンガ」で建築することをあげて、これを実践した。

また、船の修理をするドックや建築物の設計もヴェルニーの元に集まったフランス人技師たちであったので、その基準はメートル法が採用された。また建設にあたっては記録写真をとることも教えられた。さらによりよい職場環境を保つために医務室が設けられ、フランス人医師のサバチェが担当し、けがや病気以外に、健全な体を採用するにあたり健康診断も行われた。

横須賀というと、軍港の町として発展したことで、負の遺産をいつも背負ってきっていたが、これらのことが日本中の工場のスタンダードになっていくときに横須賀の造船所を抜きには語れないことであり、また軍艦以前にはさまざまな蒸気機関を開発しており、これらが日本の近代工業を支えていった原動力であった。

## クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

## 会報誌20号の発行に想う

本会報誌の巻頭言には行政・大学・諸団体の方々にご執筆をお願いしてきました。

巻頭言の執筆者探しは毎回苦労することが多かったのですが、幸い諸官庁の関係者、大学の先生方、企業経営に携わる諸先輩など多数の方々に当会活動の趣旨をご理解いただき、発行することができました。厚く御礼申し上げます。

さて、内閣府による「平成26年度特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査」によるとNPO法人の運営上の課題は人材の確保や教育、収入源の多様化、事業規模の拡充、外部の人脈・ネットワークの拡大、NPO法人の事業運営力、一般向け広報の充実などが挙っています。なかでも人材確保が最大の課題となっています。一方、市民レベルではNPO法人に関心ありとの回答が44%、同法人に関心があるものの認定・仮認定法人への寄附に無関心な人は43%ですが、ボランティア活動に関心ありとの市民は多く、全体では60%を超える結果となっています。NPOを取り巻く社会貢献活動は決して容易ではないが活動可能な人材は潜在するという事です。

ところで、元旦の戦後70年テレビ特別番組ではタモリ氏が「資本主義は行き詰っているのではないか。資本主義に何かチョット手を加えたものが要る。それはボランティア活動の方向ではないか。それに関心がある」と語っていたことは注目に値します。今後、人口減少が進み、生産性の維持・向上

### 理事長 木下 武



と暮らしやすい社会の両立(バランス)を維持していかねばならないとき、時代がNPO活動に求めるものは企業のCSR活動だけでなく個人個人が社会貢献できる場とシニア世代が活躍できる場の提供ではないでしょうか。結果として地域の活性化や当会が掲げる地域経済活動の活性化にも繋がることになればよいと願っています。

横須賀市では横須賀製鉄所(造船所)創設150周年ということで盛大に各種記念行事が行われています。費用をかけて横須賀製鉄所を造っても、その頃には幕府はどうなっているかわからないと小栗上野介が問われたとき、『長く日本のためとなって徳川のした仕事が成功したのだと後に言われれば徳川家の名誉ではないか。国の利益ではないか。同じ売り家にしても土蔵付売り家の方がよい』と答えたという。大局的に物事を捉える思考は、社会貢献的な発想を必要としているように思えます。

幕末、近代工業発祥の地となった横須賀・三浦・近隣地域に活動拠点を置く当会は、先人たちに続けとの思いを抱きながら、本会報誌やホームページが当会活動の趣旨と内容を広く発信し、社会貢献を謳う「ぶどうのささやき」になればと念じております。

### 【歳時記】ブルーベリーの効能

ブルーベリーは真夏の果実である。インターネットでホームページを紐解くと「ブルーベリー帽子一杯摘みて夏」(高橋あゆみ)

春3月末から4月にかけて、可憐で釣り鐘状の白い花をつける。早春の時期、散歩に出かけると今まで気づかなかった家庭の庭先に釣り鐘状の白い花で、ブルーベリーが植栽されていることに気が付く。我が家の庭にブルーベリーを植えたのは十数年前になる。その後園芸店で種類がいろいろあるのを知り、少しづつ買い足し、また挿し木出来るのを知って数が増え、今では地植え、鉢植え合わせ二十数本が増えた。6月初旬から青紫色の実をつけはじめ、晩成種では9月頃まで収穫を楽しめる。ブルーベリーはツツジ科に分類される北米原産の落葉果樹で、日本にも輸入された。比較的病気には強く、害虫もつきにくい、栽培しやすい家庭果樹といえよう。ブルーベリー狩りができる農園も増えた。

人気のきつかけは健康に良い、眼精疲労に効果が優れ、白内障の予防に役立つなど眼に良いことが認知されたことによるのであろう。第二次世界大戦中にイギリス空軍のパイロットがブルーベリーのジャムを食べ続けた結果、「敵の飛行機が良く見えた!」と証言したことがキッカケと言われている。その後詳しく調べられ、アントシアニンという青紫色の色素が、目の「網膜」の中に入っているロドプシンという蛋白質に働きかけることが分かった。

ブルーベリーの果皮に多く含まれる成分としてはアントシアニン色素以外に、クロロゲン酸、プロアントシアニンジン等である。効能としては酸化防止、尿路感染症予防、脳の老化防止、脳梗塞防止、抗がん作用などが雑誌などに紹介されている。中でも酸化性については、果実・野菜の酸化性を比較した結果ブルーベリーが最も高かった。人が呼吸すると体内に入った酸素の2〜3%は活性酸素になり、細胞構成成分(核酸・蛋白質・脂肪等)を傷つけ、糖尿病、がん、動脈硬化などの生活習慣病や肌のシミ、しわや白髪の原因になると言われている。その活性酸素を中和してくれるのが、酸化化物質である。サプリメントもはやる由縁であろう。ブルーベリーはこれからの二十一世紀を救う健康フルーツの一つと言ってよいであろう。(祐)





## 部会活動紹介「環境事業部会」

### 横浜市立大学 CSR センターより「CSR 認定制度現地審査員」に委嘱される

#### — 燃えて！ 輝き！ 現地審査業務に励む部員の紹介 —

横浜市立大学 CSR センター（センター長・影山摩子弥教授）が監修・審査を実施する、ある全日本工業組合連合会（5300 社）の CSR（企業の社会的責任）認定制度の現地審査員に横浜市立大学 CSR センターの特別研究員として環境事業部会の 4 人が委嘱されました。そして、メンバーは技術士、ISO 審査委員資格などを持つ行政や企業出身のシニアであり、平均年齢は 73 歳である。2015 年 5 月から本格現地審査が始まり、北海道から鹿児島まで広範囲である。メンバーは、“燃えて、輝き、生き活きて” 現地審査業務に励み臨んでいる。



うと気概をもって臨む新しいことへの挑戦（学びと実践）が心地よく、こんなに楽しいものかと新たな生きがいを感じている。時間を有意義に使うことは素晴らしい価値を生み出すことにもなる！

#### 1. なぜメンバーは CSR 認定制度に嵌り込んだのか

##### (1) CSR（企業の社会的責任）とは

影山教授は、CSR とは主要な利害関係者（ステークホルダー）のニーズや期待を把握し、それに取組みをすることで、生き残りを図る戦略的な考え方、あるいは戦略を導く方法であると説明しています。

##### (2) メンバーの知的資源（知識と体験）を CSR に活かせることが楽しい！！

現代は、メンバーが日本の高度成長時代を生き抜いてきた社会・経済環境とは大きく異なり、企業戦略も「良い物を早く安く作って」の「物」から、「人と集団」（利害関係者）の時代となっている。審査業務は、申請会社の①申請書類の確認と審査、②現地審査、③報告書の作成です。準備作業を横浜市大内にて共同で行い（週 1 回・5 時間程）、資料の理解と認識の共有化を図り、後は自宅作業です。この準備作業が何とも楽しい。現役時代に養った知識と体験を活かすために CSR を学び、社会・経済環境の変化や業界のことを調査・勉強し、書類審査作業を実践し、現地審査後の報告書作成に当たっても 4 人で企業取組の実態を勉強する。審査業務はかなりハードであるが、年を取っても、自らが本気でやる

#### 2. 現地審査員として CSR の責任を果たしたい（メンバーの思い）

(1) マズローの欲求 5 段階説によると、欲求の最終段階は「自己実現」で、自分が自分であると思える状態や自分の可能性を最大限発揮している状態である。我がメンバーは先鋭化するニーズに、プロボノ的な現地審査実現（自己実現）に向かっている。

(2) CSR は、企業が生き抜いて行くための重要な企業戦略である。そこで、現地審査員として、企業が持続性ある盤石な経営基盤をつくり、成果に結びつくための審査を心掛けたい。

(3) CSR は、日本では行政、NPO、PTA、自治会など「あらゆる組織や事業体の社会的責任」という意味で使われる。産業クラスター研究会も社会や時代によって変わる CSR を踏まえた社会貢献活動に邁進したいと考えている。

最後にこのような機会を与えて頂いた影山教授に心から感謝を申し上げます。

（副理事長兼環境事業部会長 阿部 昭彦）

## 歴史散歩

### 幕末の大事件“安政の大獄”2人の主役

#### 吉田松陰と井伊直弼

個人会員 徳山 昭仁

#### 江戸東京の吉田松陰・井伊直弼ゆかりの地を訪ねて

今年、NHKの大河ドラマでは吉田松陰の妹文を主人公とした「花燃ゆ」が放映されています。吉田松陰を取り上げた映画やテレビドラマが多くない中、今年の大河ドラマは松陰を準主役としたような作品になっていて、とても喜びを感じています。この度の会報誌には、私の敬愛する吉田松陰を中心とした歴史散歩を書かせていただくこととしました。紙面の関係で、記述に粗雑さなどがあるかも知れませんが、ご容赦ください。

#### 松陰神社を訪れる

平成22年は、吉田松陰誕生180年また没後150年の記念の年でした。

友人と連れ立って吉田松陰が眠る「松陰神社」、大老井伊直弼が眠る井伊家菩提寺「豪徳寺」そして松陰最後の地「伝馬町牢屋敷跡」を訪ねてみました。



松陰神社本殿

午前10時に東急電鉄世田谷線松陰神社前駅で待ち合わせて、松陰神社へと続く参道「松陰神社通り商店街」をしばらく行くと高くそびえる鳥居が見えます。松陰神社です。徳川幕府大老井伊直弼の弾圧による「安政の大獄」に連座し、処刑された吉田松陰を祀る神社です。

伝馬町獄舎において処刑された松陰の亡骸は小塚原の回向院で長州藩士に下げ渡され、埋葬されますが、刑死から4年後の文久3(1863)年、塾生であった伊藤博文や高杉晋作らによってこの場所へ改葬されます。境内には、松陰の座像、御社殿、石灯籠、萩の松下村塾を模した学び舎そして松陰の墓所などがあります。

石灯籠は吉田松陰の50年祭に当たって寄進されたもので、毛利元昭、伊藤博文、木戸孝正、山縣有朋、桂太郎、乃木希典、井上馨などの名前が刻まれています。現在は32基の石灯籠が奉獻されています。わずかな間の松下村塾での教育、国や人を思う松陰の心がいかに深く、大きなものであったかを伺い知ることができました。そして、境内の奥地には墓所があり、松陰はじめ長州烈士の墓が並んでいます。墓所の入り口には木戸孝允が寄進した鳥居があり、時代を感じました。

#### 近江彦根藩井伊家の菩提寺豪徳寺を訪れる

松陰神社を出て直ぐにある桂太郎の墓、国士館高校、

国士館大学を通り過ぎ、小田急電鉄豪徳寺駅に向かう途中に近江彦根藩井伊家の菩提寺豪徳寺があります。豪徳寺は、世田谷城主吉良政忠が文明12(1480)年に、死去した伯母の菩提を弔うために建立したとされる弘徳寺が前身だそうです。



豪徳寺本殿

寛永10(1633)年、この地が彦根藩世田谷領となると同時に井伊家の菩提寺となり、藩主直孝の法号(戒名)によって「豪徳寺」と改称されたということです。当寺の仏殿や石灯籠、梵鐘などは当時のまま残されており、歴史的価値は計り知れないということです。境内には、二代藩主直孝をはじめ、代々の墓所が残されており、直弼の墓も安置されています。松陰の死から5ヶ月後の安政7年3月諸大名総登城の日の朝、直弼は桜田門を目前にして水戸浪士(1人は薩摩浪士)によって暗殺されます。世に言う「桜田門外の変」です。

#### 吉田松陰終焉の地を訪れる

夕刻近く、東京メトロ日比谷線の「小伝馬町駅」に到着しました。

4番出口を出ると正面に吉田松陰終焉の地の説明碑があります。左、左と歩いて行くと十思公園、大安楽寺、身延別院があります。ここが「伝馬町牢屋敷」のあった場所です。延宝5(1677)年にこの地に移され、明治8年、市ヶ谷囚獄ができたことにより廃止されます。廃止まで



江戸伝馬町処刑場跡石碑

の 200 余年間、この地にありました。

大安楽寺には「江戸伝馬町処刑場跡」の石碑が、十思公園には「吉田松陰終焉之地」の石碑があります。また十思公園には「石町 時の鐘」があります。

伝馬町獄舎で処刑が行われる時はこの鐘の音が合図になったそうで、処刑が行われる日には、わざと鐘を遅らせて撞いたといわれ、俗に「なさけの鐘」といわれています。何か心が温まる思いがしました。

こうして過ごした一日、吉田松陰と井伊直弼の江戸・東京における足跡とゆかりの地を訪ね歩いた一行は、一日長く歩いて来たことも忘れ、ほのぼのとした、心穏やかな面持ちそのままにネオン街へと吸い込まれて行きました。

### 結びに

210 余年に渡り鎖国制度を布いてきた日本は、良きにつけ悪しきにつけ、幕末期において国際化、近代化の時代の波にさらされることとなります。

世界情勢や国内情勢が急変していく時代の中で、吉田松陰も井伊直弼も目指すところは同じでした。すなわち、日本を世界の脅威から守ることそして日本の社会体制を揺るぎのない盤石なものにすることでした。しかし、その手法やプロセスに大きな違いがあり、対峙する結果となりました。

下級武士と大老、長州藩と彦根藩、身分も出身地もまったく異なる二人が、ましてや、処刑した者、された者二人が、歩いてききほど遠くないこの世田谷の地に眠っていることに歴史の不思議さやロマンを感じます。

“身はたとひ 武蔵の野辺に 朽ちぬとも

留め置かまし 大和魂”

この句は、「留魂録」に記された吉田松陰辞世の句です。

“咲きかけし たけぎ心のひと房は

散りての後ぞ 世に匂ひける”

この句は、死の前日に求められて詠んだという井伊直弼のもので、はからずも結果的に辞世の句となりました。「柳廼四附（やなぎのしずく）」に収められています。いずれも両者の志の無念さや信念が伺い知れます。

そして、この時代の扉を叩いたのが、アメリカ合衆国東インド艦隊司令長官ペリー提督率いる黒船の来航でした。浦賀沖に停泊し、アメリカ合衆国大統領フィルモアの親書を渡すためにペリー提督が上陸したのが久里浜の海岸でした。久里浜のペリー公



北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑

園には「ペリー上陸記念碑」がそびえています。

浦賀も久里浜も横須賀市に属しています。横須賀市は、このように日本の国際化、近代化へのさきがけのきっかけとなった正に「開国のまち」です。

この街に所在するわが産業クラスター研究会も、政治的にも、経済的にも益々激化する時代を迎え、国際化が更に進んで行く社会にあつて、“地域経済、地域社会の活性化に寄与する”という活動が益々推進されることを願い、結びといたします。

## 事務局からのお知らせ

- ① 平成 27 年 2 月 17 日 平成 26 年度第 4 回の経営者交流会が開催され、法人会員 かながわ信用金庫の片岡常務理事、田中課長による「かながわ信用金庫による経営サポート体制について」の講話があり、会員以外の参加もあり賑やかに懇談しました。
- ② 5 月 1 日 横須賀商工会議所会員になりました。
- ③ 5 月 27 日 平成 27 年度通常総会を開催し、滞りなく終了しました。そのあとささやかに懇親会を行いました。
- ④ 6 月 3 日 吉田雄人・横須賀市長と海軍カレーを食べながら懇談・意見交換する車座ランチに参加しました。
- ⑤ 新規入会者の紹介

法人会員

りょうわこうぎょう

菱和工業(株) (東京都大田区)

こやまぼうさい

(有)小山防災 (横須賀市)

協力会員

ながらく

長楽 謙一郎 (横浜市)

(事務局 佐々木 興吉)

## 法人会員紹介

昨年から今年にかけて入会された法人会員、5社について、その概要をご紹介します。

なお、当会のホームページ (<http://www.cluster.jp>) にも類似の紹介がありますのでご活用ください。

(広報部会 部会長 新井 全勝)

### 有限会社 守谷園

代表取締役：守谷 茂

〒238-0236 神奈川県三浦市栄町18-3

電話 046-882-5026 FAX 046-881-4955

問合せメール：moriyaen@ab.wakwak.com

照会先ホームページ：<http://townsearch.net/detail.php?kanagawa=56191>

事業内容：造園・土木

特色：造園業を中心に、関連する土木工事から廃棄物の収集運搬と剪定枝・草の自己処理（破碎機によるチップ化）まで総合的に事業を行っています。



(有)守谷園 事務所

### 有限会社 大金工務店

代表取締役：鈴木 謙太郎

〒238-0316 神奈川県横須賀市武4-19-2

電話 046-856-6629 FAX 046-856-5175

問合せメール：daikinkoumuten@jcom.home.ne.jp

照会先ホームページ：<http://ntbj.itp.ne.jp/0468566629/index.html>

事業内容：①建築工事（一般住宅、店舗・事務所）②内装工事（改修工事）③バリアフリー（手すり、段差解消、建具の取替え、その他）④防犯・防音工事

特色：①一級建築士事務所 ②お客様と造る温かい家！ ③プランニングから設計、施工、アフターサービスまで万全



(有)大金工務店 住空間の提案

### 有限会社 藤森商店 (のりの藤森)

代表取締役：藤森 紀明

〒236-0022 神奈川県横浜市金沢区町屋町21-7

電話 045-781-8228 FAX 045-782-0518

ホームページ：<http://norinofujimori.com>

事業内容：①乾海苔の卸売業 ②海苔の加工業 ③小売業

特色：①味と香りを徹底的に追求し、皆様に喜んで頂ける厳選した「のり」を自社工場より直接お届けしています。②横浜市金沢ブランド認定「横濱金澤海苔物語」



(有)藤森商店 店内風景

### 有限会社 小山防災

代表取締役：小山 哲史

〒238-0043 神奈川県横須賀市坂本町1丁目34

電話 046-824-1910 FAX 046-824-0282

問合せメール：koyamabs.tetushi@sand.ocn.ne.jp

照会先ホームページ：<http://ntbj.itp.ne.jp/0468566629/index.html>

事業内容：①消防用設備の設計・施工・保守点検業務 ②消防用設備の機器の販売業務 ③弱电設備の施工および管理業務 ④防犯灯設備の施工業務

特色：①消防設備点検、改修工事、消防署への報告書作成までお任せ下さい。お客様のご要望になるべく添えるよう迅速丁寧に対応させていただきます。②地域の防災訓練にも参加させて頂いております。防災用品の販売や消火器、住宅用警報器等のご相談も承っております。



(有)小山防災 防災訓練風景

## 法人会員紹介

## 菱和工業株式会社

代表取締役：大村 裕司

〒144-0033 東京都大田区東糞谷 5-20-19

電話 03-3745-0721 FAX 03-3745-5805

問合せメール：ryowa2007-hp@ryowa-kogyo.co.jp

ホームページ：http://www.ryowa-kogyo.co.jp/

事業内容：①設計 110 番：2D → 3D 変換 3D → 2D 変換 設計支援 ②試作 110 番：3D モデル試作サービス ③プラスチック 110 番：樹脂加工サービス ④板金 110 番：工業板金加工サービス ⑤ゴム 110 番：工業用ゴム加工サービス ⑥加工 110 番：CNC 機械加工サービス ⑦組立 110 番：受託組立サービス ⑧補修 110 番：構造物の補修・補強材料「EAGLE8」の販売

特色：①ものづくり 110 番 ものづくりの現場でのお困りごとをまとめて解決 ②設計から最終製品組立まで光学・精密機器のトータルエンジニアリング企業



菱和工業(株) 会社風景



## 広報部のあゆみ

《会報誌 20 号記念小特集》

当会の広報チャンネルの一つである会報誌が、この度の発行をもって 20 回を数えることになりました。これを機会に、広報部のあゆみを振り返ってみたいと思います。

## 広報部の役割

広報部は、NPO 法人として当会の活動状況や財務状況を公開する社会的な義務を果たすとともに、当会の意義を理解し、賛同していただくために、その活動状況をタイムリーに紹介する情報発信の役割があります。このための広報チャンネルとして、ホームページと会報誌があります。

## ホームページが先行

当会が任意団体として創設された平成 15 年 8 月に、早くもホームページ部が設立され、翌 9 月にホームページを立ち上げ、広報チャンネルを確保しました。そして、1 年間の運営経験に基づいて、翌 16 年 11 月にリニューアルするとともに、英語版ホームページも立ち上げました。

そして、情報の公開の役割を果たしてゆくことになります。広報チャンネルとして、ホームページの立ち上げが、会報誌の発行に先行したことに当会の広報活動の特色があります。このことは、日本のホームページ市場が成長期にあったこととともに、当会の創設にホームページ制作技術者が参画していたことにあります。

## 会報誌の発行

しかし、ホームページになじみの薄い人への対応など広報活動の強化のために、平成 19 年 12 月に会報誌の発行が提案され、翌 20 年 5 月に創刊号が発行されます。



会報誌の発行に踏み切り、また創刊号において、その後の主要な記事メニューが確立されたことは、出版社編集長の経験者が参画し、主導したことにあります。因みに、この人は女性です。

創刊号の発行の機会に広報部が設立され、ホームページ部の活動のうち、当会のホームページの更新と運営が広報部に移管され、当会に関する広報活動は、広報部が統括することになります。

## ホームページ制作ツールの変更とリニューアル化

当会のホームページの運営においては、過去のページ情報を蓄積保存するアーカイブという方式を採用していたため、更新の回数の増加とともに、その管理が複雑になり、更新の負担が増えるという問題が顕著になってきました。

そこで、ホームページの制作ツールを一新することにして、相談した業者から提案されたのが WordPress というホームページ制作ツールです。このツールは、コンテンツマネジメントシステム (CMS) という最新の管理方式を採用しているため、アーカイブを自動的に行う

ことができるとともに、コンテンツの投稿や改訂が容易という特徴があります。この結果、ホームページの定期更新に加えて随時更新を行う運営が現実的になりました。

従来のページ情報をページ情報とアーカイブの対象となる記事とに再構成し、ホームページをリニューアルして、年3回の定期更新とともにイベントの開催案内や実施報告という記事の投稿による随時更新を開始しました。

## 市民協働事業を通じて始めた新しい公共支援

平成24年4月に、NPO法が改定、施行され、活動は会員のみならず広く一般社会や市民を対象にした「新しい公共」の概念に対応していくことが求められ、2つの広報チャンネルを軸とした広報活動もこの「新しい公共」を意識した活動を取り込んで行きます。

当会には、新聞社出身の会員もおり、この人が中心になってプレスリリースや新聞の広報欄への投稿を市民公益活動団体に呼び掛けた横須賀市の市民協働推進セミナーが好評を博し、セミナー開催時だけでなくその後も活動は続けられています。このようなイベントの開催案内や実施報告は、ホームページの随時更新が適切な広

報手段となっており、また実施報告を後日再表示して見ることができるという点においてアーカイブが効果を発揮しています。

## 地域住民を対象にした新しい公共支援

NPO法の改定・施行により求められる一般社会や市民を対象にした新しい公共支援として何を実施するかは難しいことですが、これは、会員募集、事業の受託、寄付金募集など、当会の事業の継続性とも関わりがあることから、多くの人が興味を抱く方向へと広報活動をシフトさせて行くことにしました。

(1) 会報誌については、巻頭言の執筆者範囲の拡大、トピックス情報の記載、歴史散歩という読み物の追加を行っています。

(2) ホームページについては、ニュース情報の掲載、訪問記の掲載、事業活動や四季の写真のスライドショー表示、まちかど情報の掲載、メルマガ到着のお知らせなどをサポートし、随時更新とアーカイブが役立っております。

当会の事業の軸である中小企業支援を継続しながら、地域貢献に対してより有意なものを模索してゆくことが今後とも重要と考えております。

(広報部会 部会長 新井 全勝)

## トピックス

### 当会の活動が「はまかぜ(金沢版)」にて紹介される

地域情報紙「はまかぜ(金沢版)」4月号において、当会の活動が「非営利のサークルやグループの紹介コーナー」で紹介されました。

当会は、横浜市金沢区においてもいくつかの活動を推進しておりますが、それらの活動が評価されたものと受け止めております。

今回掲載された内容は、平成25年4月から金沢小学校において実施してきたエコ教育(ゴミの分別、電気・水の節減と燃えるゴミの減量化、環境に関するテーマ)で、平成26年6月に「第1回金沢区環境にやさしい活動表彰」を受賞しているものです。

小学校時代にエコ教育をスポット的ではなく年間を通じて創意工夫をしながら体系的に学ぶことにより、「環境と省エネ」に関心を持ってもらい、将来環境を意識してもらうことを期待しております。

(広報部会 部会長 新井 全勝)



発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所／〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先：046-847-6355 E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武